

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
分担研究報告書

総合的な思春期・若年成人（AYA）世代のがん対策のあり方に関する研究

「学会連携」

研究分担者 大園 誠一郎 社会医療法人大道会森之宮病院・泌尿器科・顧問

研究要旨：思春期、若年成人(AYA)世代がん患者に必要な行政施策や治療開発は立ち後れており、本班研究では適切ながん対策の政策提言ならびにガイドラインの作成を見据えてきた。そこで、本研究遂行のため、関係学会・団体と連携してさまざまな観点から総合的に検証を行うことが求められ、日本癌治療学会の立場から連携を図った。

A．研究目的

思春期、若年成人(AYA)世代がん患者に必要な行政施策や治療開発は立ち後れており、適切ながん対策の政策提言ならびにガイドラインの作成を見据えて本班研究が開始された。しかし、AYA世代がん医療に関して実態把握および意識調査などの研究の遂行には、日本小児・思春期・若年成人がん関連学会協議会に参加している各学会の理解と協力が必要であり、特にがん治療に関する横断的学術団体である日本癌治療学会の立場から連携を強固なものとするための活動を行う。

B．研究方法

本研究の班会議ならびにメール連絡で得られたAYA世代がん医療に関する実態把握および意識調査の方法ならびに成果について、日本癌治療学会理事会ならびに関連学会連絡委員会において適時報告を行い、連携を図る。

C．研究結果

本年度に行われた日本癌治療学会理事会（平成29年4月6日、同年7月6日、および同年10月19日）、日本癌治療学会代議員総会（同年10月19日）において、本班研究内容について進捗状況ならびに研究協力依頼を行った。また、前年度に実施された医師アンケートの結果について、理事会においてその概略を説明した。

すでに理事会ならびに関連学会連絡委員会においては十分な理解が得られており、本年度開催された第55回日本癌治療学会学術集会において、シンポジウム「それぞれの癌：AYA世代がん医療の現状と展望」（平成29年10月22日）を行い、班研究参加者を中心に発表・討議した。

D．考察

日本癌治療学会は、会員数17,000名を超える本

邦最大の領域・職種横断的がん関連学術団体であり、本班研究遂行に連携を保つことは非常に有用であった。今後とも、AYAがん診療を充実したものにするために、本学会との連携を密に保ちつつ、情報提供と協力要請を継続することが肝要である。

本研究班での研究内容であった政策提言や診療ガイドライン作成に通じる成果も日本癌治療学会会員にアピールすることが期待される。

E．結論

本班研究遂行のために日本癌治療学会との連携は重要である。

F．健康危険情報

なし。

G．研究発表

1. 論文発表

なし。

2. 学会発表

なし。

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）

1. 特許取得

なし。

2. 実用新案登録

なし。

3. その他

なし。